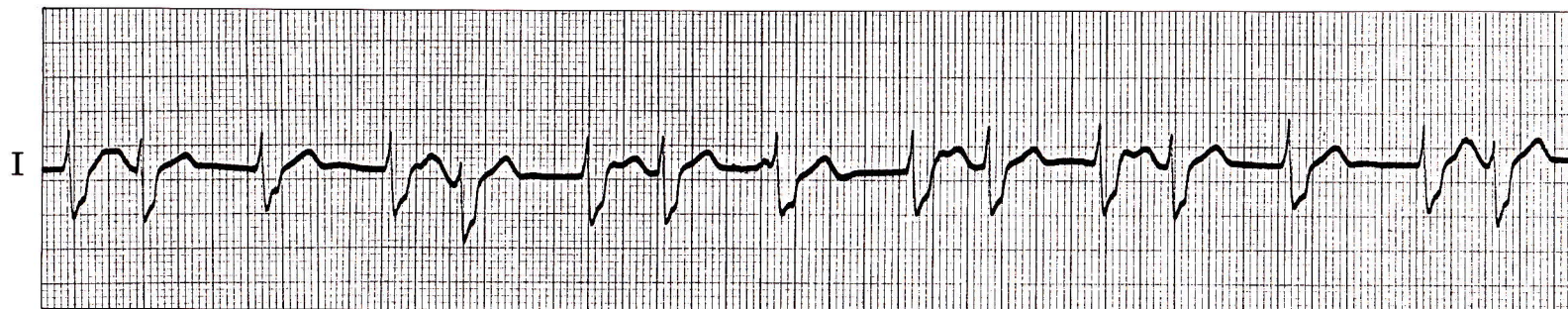


症例 48

●12歳 男

ファロー四徴症術後。脈の結滞に気づき来院。



- 1) 幅広いQRS波が不規則に出現しているが、P波との関係はどうなっているか。
- 2) このリズムは何か。

心電図診断

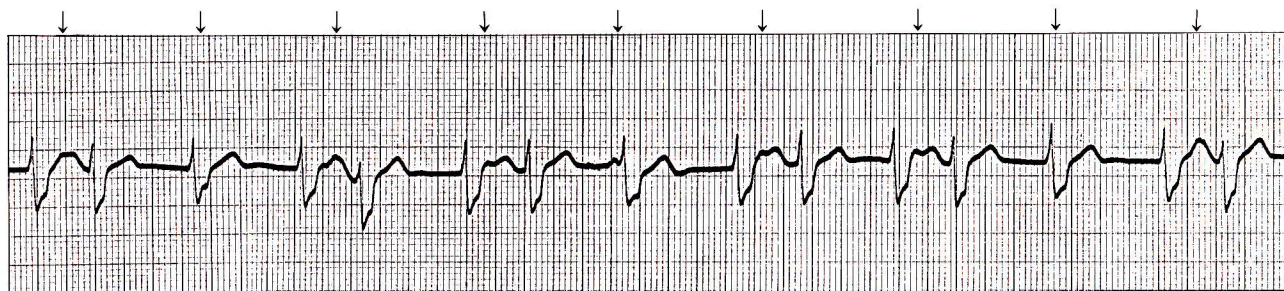
房室干渉解離(完全右脚ブロック)

P波(↓)は規則正しく出現(1部はQRS波の中に隠れている)、PP間隔0.88秒～1.04秒。

2、5、7、10、12、15拍目はP波から伝導されたもの(心室捕捉)。

1、3、4、6、8、9、11、13、14拍目は下部中枢の自動であり、そのRR間隔は0.66秒～0.77秒で、PP間隔より短い。QRS波形が変わらないため房室接合部付近の自動能亢進と考えられる。

QRS波はいずれも幅が0.12秒以上で同じ波形(Iで幅広く深いS波→完全右脚ブロック)。



解説

下部中枢の自動能が亢進し、洞結節の興奮頻度を超えたとき、房室解離が起こる(PP間隔>RR間隔)。心室の不応期にはいったP波は伝導されないが、不応期を脱した時期にはいったP波は伝導されて下部中枢のリズムを乱す(干渉解離)。